

どろんこになって大はしゃぎ

～田植え体験～

6月5日、上県町佐護^{さぐり}棕梨^{あしな}（野島の森）で、対馬市農業委員会と対馬市認定農業者協議会が主催する「田植え体験」が実施されました。

この事業は、田植え体験や稲刈り体験をとおして「作る楽しさや収穫の喜びを体験する」ことを目的に企画された事業で、市内から70名が参加しました。

当日は天気にも恵まれ、元気よく田んぼに飛び出していた子供たちは、泥んこになって歓声をあげながら田植えをしていました。中には田んぼに尻もちをついて泣きべそをかく子や、泥の中を泳ぎ出す子もいて大騒ぎでしたが、スタッフの丁寧な指導で、農業や自然とふれあう楽しさを学び、親子とのふれあいを楽しんでいたようです。

今回植えた稲は、11月に稲刈り体験で収穫することができます。皆さんも是非参加してみたいかがでしょうか！



みんな上手に植えていました



泳いで泥だらけに



25kmのサイクリングもへっちゃら、この笑顔

東京の小学生が対馬を楽しむ！

～青山学院洋上小学校～

6月6日、青山学院洋上小学校の船が対馬（久田岸壁）に寄港して、初等部6年生118名が、魚釣り、サイクリング、登山、市内観光のコースに分かれて対馬の自然や歴史、文化を楽しみました。
引率の初等部部長^{かみん}上戸秀夫さんによると、この洋上小学校は、毎年6月に客船を借上げ、8泊9日の日程で日本各地の離島などを回って、子どもたちに、日ごろ学校ではできないことを体験してもらうため行われているので、船内では、船員が先生になって、手旗信号やロープワークの指導も行われたそうです。
今回は屋久島に寄ったあと対馬を訪れたもので、25kmのサイクリングを楽しんだ子どもに、対馬の印象を聞くと、「サイクリングは最初きつかったけど、自然がいっぱいいて空気がおいしく、海もきれいだったので気持ちよかったです。」と答えてくれました。



何が釣れたのかな



もうすぐゴールあと一息

「ちょボラ」って気持ちいい
女性たちの清掃活動



すみずみまできれいに

5月29日、豊玉町連合婦人会（吉村ひとみ会長・会員101名）が、特別養護老人ホーム「わたづみ」周辺の清掃活動を行いました。
これは、地域に住む女性として、もっと環境美化に対する意識を持ち、活動をおしとボランティア精神を養おうと行われたものです。
当日は50名の会員が参加し、施設の中庭や植え込みの雑草を根気強く丁寧に取り除きま

した。最後には施設の方より感謝の言葉をいただき、「ちょボラ」（小さなボランティア）の気持ち良さを感じた一日となりました。
終了後は、グラウンドゴルフで会員の親睦も深めました。

日韓合同で漂着ゴミ回収

6月4日、対馬ロータリークラブ（松原一征会長）が、美津島町今里の大海（おおつら）海岸で、日韓合同の漂着ゴミ清掃奉仕活動を行いました。

これは、今年国際ロータリークラブ創立100周年事業の一環として、姉妹クラブである韓国巨済島ロータリークラブと合同で行われたもので、両ロータリークラブ会員をはじめ、郵便局、保健所、今里区民、九電協力会、対州海運などから、総勢130人が参加して漂着ゴミの回収を行いました。
約2時間の清掃活動で、2トトラック40台分のゴミが回収され、ゴミだらけだった大海岸はすっかりきれいになりました。



大量のゴミが打ち上げられていました

海の環境を守ろう！
海洋環境教室

6月7日、比田勝小学校で比田勝海上保安署による海洋環境教室が行われました。

教室では、Ph（ピーエッチ）試験紙とパックテストを使用した水質実験と漂着ゴミのトランクミュージアム（旅行用トランク内に漂着ゴミを貼り付けたミニ博物館）の作製を行いました。
水質実験では、試験水によって様々の色に変化する様子を見て、児童からは驚きの声

が上がっていました。

トランクミュージアム作製では、漂着ゴミをガラス、プラスチック類などに分けて漂着ゴミの博物館を完成させました。子どもたちは、漂着ゴミを改めて見て、身近な海洋汚染を感じていたようでした。
また、6月8日には比田勝幼稚園でも環境教室が行われ、環境紙芝居「うみがめマリンの大冒険」や海上保安庁マスコット「うみまるくん」との握手や記念写真が行われ、うみまるくんと園児たちは海をきれいにする約束をして教室は終了しました。



熱心に水質実験を受けていました

今年もきれいになりました。
尾崎山公園
清掃ボランティア

6月8日、豆酸の里を考える会（本石一幸会長）のメンバーと安神の海上自衛隊下対馬警備所の隊員が、豆酸尾崎山公園から豆酸崎までの清掃作業を行いました。

豆酸崎は、対馬の観光名所のひとつで、毎年、会のメンバーと海自隊員が、夏の観光シーズンを前に、清掃ボランティアを実施しています。

当日は蒸し暑い一日で、参加した皆さんは、汗だくになりながら作業を進めていました。



仕上げもきれいに

地域活性化は自分たちの手で
〜若い経営者の主張大会〜



最優秀の中村さん

6月15日、対馬市商工青年部による「若い経営者の主張大会」が、対馬市商工会豊玉支所で行われました。

主張大会では各支部の代表6名が青年部活動、地域振興・まちづくりについて、貴重な意見発表を行いました。

発表時間は10分、内容、構成、表現力、態度が審査基準で、峰支部の中村敏憲さんが最優秀に輝きました。

中村さんは、長崎東高を卒業、2年間長崎市内のガソリンスタンドで修業し、3年前から佐賀の実家のスタンドに勤務しています。

発表の内容は、青年部活動

を通じて、人と人とのつながり、交流がいかに大切か。それを生み出すことが青年部の役割と感じ、地域社会の活性化を自分達の問題として真剣に考えるようになったと述べました。また、対馬をスローライフの受け入れ場所として、全国や韓国、諸外国にもアピールしてはどうかと提案しました。

時の記念日に
時計のプレゼント



プレゼントされた時計を持つ園児

6月10日、「時の記念日」に、対馬時計商組合（鍵本俊雄組合長）から、対馬市に時計が贈られ、竹敷へき地保育所で贈呈式がありました。同組合は、毎年、時の記念日

に市内の保育所などに時計を贈り、4回目となった今年で市内の全保育所にプレゼントしたことになります。

園児を代表して、福田涉くんと堀渚沙ちゃん（ほりなづさ）が、「時計を見て時間を守ります」とお礼のあいさつをしました。



記念に自分たちも時計を描きました

Toshiさんが
ミニコンサート



熱唱するToshiさん

6月19、20日に、元 JAPANのボーカル、Toshiさんが、対馬市の老人福祉施設を慰問し、ミニコンサートを行いました。

これは、Toshiさんが、2001年から、各地でのコンサートの合間に、地域の福祉施設を訪れているもので、今回、福岡でコンサートで来たことを利用して、対馬に初めて訪れたものです。

のびやかな歌声で歌うToshiさんに、「あなた歌がうまいねえ。いい歌やつたよ」と、JAPANのことを知らない施設利用のおばあちゃんも、感激して握手を求めていました。



「歌うまいねえ」とおばあちゃんから声を掛けられました

キャンペーン隊訪問
〜アイランド花どんたく〜

9月9日から11月20日まで福岡市で開催される第22回国都市緑化ふくおかフェア（愛称・アイランド花どんたく）のキャンペーン隊が、6月8日、フェアの周知と来場者促進のため対馬市役所を表彰訪問しました。

アイランド花どんたくは、福岡市東区のアイランドサイトで開催され、世界初の「青いバラ」の展示やオールヌーボーの巨匠「エミール・ガレ」の没後100年展など多彩な催しが行われます。

